する研究班

平成１４年度はピカウンセラー・ピアエデケーターの養成カリキュラムと養成者養成の国際的動向を、国際機関および専門組織から収集・翻訳した。平成１５年度は、その中からピアカウンセラーおよびピアカウンセラー養成者養成のカリキュラムに焦点を当て、その相違および類似点を検討し、本研究班とくにピアカウンセラー及びピアカウンセラー養成者（指導者)用紙カリキュラムを照合した。本研究班で開発されたカリキュラム案の整合性・妥当性を研究動議し、わが国におけるピアカウンセリング・ピアエデケーションの効果的普及を図るための方向性を確認した。

C．結果および考察

1．ピアカウンセリング指導者（養成者）養成マニュアル作成班

平成15年度は、ピアカウンセラー養成者（指導者）養成のためのカリキュラムを作成し、モデルセミナーとして35時間のベーシックセミナーと15時間のフォローアップセミナーを開催した。その後、モデルセミナーの受講生がスーパーバイズを受けながらピアカウンセラーを養成したプロセスや、養成したピアカウンセラーのピアカウンセリングやピアエデュケーションの実践評価を通して、カリキュラムの修正を行った。その結果、ピアカウンセラー養成者（指導者）養成のためのベーシックセミナーモデルプログラム（45時間）および、フォローアップセミナープログラム（15時間）を完成させた。

ピアカウンセラー養成者（指導者）養成モデルセミナー受講者によるピアカウンセラー養成は、東北四県（秋田、岩手、山形、福島)、長野県（長野、佐久)、佐賀県、宮崎県、鹿児島県において行なわれた。

本研究班で作成されたマニュアルにそったピアカウンセラー養成者（指導者)、ピアカウンセラーの養成をより円滑に行ない、広く普及させるためには、組織的に取り組む必要がある。そこで、現在、養成や認定などに関わる組織団体として、仮称　ピアカウンセリング研究所の設立を検討中である。

2．ピアカウンセラー養成マニュアル作成班

過去に実施されたセミナーの評価のための質問紙調査を実施し、セミナーでの学びの活用状況を把握し、モデルカリキュラムに反映させた。2002年に全国10地域から集めた大学生を対象として、モデルセミナー(3泊4日)を実施した。その後、養成したピアカウンセラーが、どのようにそれぞれの地域でピアカウンセリング/エデュケーションを実施したかを追跡した。その翌年の2003年に、受講生のニーズに合わせたフォローアップセミナー（1泊2日）を実施し、カリキュラムに盛り込むべき内容を再考した。出来上がった、モデルカリキュラムを用いて異なる地域でピアカウンセラー養成セミナーを開催し、さらに教育内容や事例の検討を加えた。

3．関連機関との連携によるピアカウンセリング立ち上げと効果的普及に関する研究班

（栃木県）

栃木県では、１０歳代の者の人工妊娠中絶率の激増と高校生の性意識の問題に対応するため、ピアカウンセリング手法にいち早く着手し、県教育委員会と連携しながら、県内全高校生を対象にスタートした。平成１５年度では１４年度から開始した事業の見直しとくにピアカンセラーの候補者の養成に意見が分かれ、高校生はピカウンセリング講座の受講側に回ったほうが効果的との声が大きく、１５年度は大学生年代に養成の枠を絞った。

また、養成事業委託先のとちぎ思春期研究会の主催で、約半年後にフォローアップ（ブラッシュアップ）セミナーを開催し、カウンセラーたちは積極的に再研修を受けていた。また、ピアカウンセリング受講者およびピアカウンセラーの保護者に対して調査を行なったところ、ピカウンセリングを好ましい方法と受け止

めていることも示唆された。学校側に伝達の場を準備し始めている状況が伺われた。今後高校での活用の具体例を蓄積し、広く高校で活用する様に勧めることの必要性を感じる。また、とちぎ思春期研究会会員ピアカウンセラーとで連携をとりながら、思春期相談所クローバーピアルームを委託運営している。ピアカウンセラーもとちぎ思春期研究会員も共にボランティアの精神で動いているので、時にはスムースな運営に至らず試行錯誤しながら進めているが、クローバーピアルームの利用者は確実に増加している。これらに関しては栃木県の分担報告書の添付資料として掲載しているので参考にされたい。

反面、相談内容などの対応しきれないピアカウンセラーの出ていることからさらに検討していくことが求められている。ピカウンセラー養成事業は平成 14 年度から3年計画であるので、１７年度以降の取り組みと事業の定着のためには今までの成果を健やか親子の指標などともからみ合わせて評価するなど、民間問わず労を惜しまない努力が必要である。２年間の事業を通して、ピアカウンセリング参加高校生の今後の高校での活用の具体例を蓄積し、広く高校で活用する様に勧めることの必要性を感じる。また、ピアカウンセリングに対する参加高校生の保護者からの本事業への期待は大きなものがあった。

（高知県）

ピアカウンセリング活動を普及する場合、ピアカウンセラーとしての人材を養成する方法として高等学校等の学校教育関係の協力を得て実施する方法が考えられるが、学校教育での性に関する取り組みには大きな地域格差が見られる。そこで、学校教育関係以外に保健行政関係者が、思春期保健対策と一つの方法としてピアカウンセラー活動を立ち上げ、定着するための方策に関するマニュアルを作成する。

平成１４年度.１５年度と保健行政が主体となって関係機関との連携によるピアカウンセリングの立ち上げに関するマニュアルを作成した。立ち上げ及び効果的な普及に際して特に留意すべき事項としては、事前の環境整備及び調整と、養成講座後のピアカウンセラーの活動維持策について、当初から念頭において取り組むことの必要性が明らかとなった。

事前の環境整備及び調整については、教育関係者を含めて国民に様々な性に関する価値観が存在する中で、ピアカウンセリング活動を地域行政として推進する根拠(現状)等を明らかにし、広く取り組みの理解を得るための広報が重要である。養成講座後のピアカウンセラーの活動維持策については、定期的な活動とそれを維持するための活動拠点の確保が重要である。

４．ピアカウンセリング評価および効果的普及に関する研究班

平成 14 年度の研究では性に関するピアカウンセリング受講予定者は女が男に比べ２倍、無作為抽出群中で性に関するピアカウンセリング受講を希望する者も女が約 1.7 倍多く、女の方が性に関するピアカウンセリングにより積極的に興味を示す傾向があると思われた。

受講予定者と無作為抽出者とは多くの調査項目で異なる結果を示し、受講予定者は性に関連する事をはじめとして、平均的なレベルより一般的に行動的で積極的な性質を持つ集団であると思われた。無作為抽出者の中で性に関するピアカウンセリング受講を希望する者と受講予定者を比較してみると、性体験や知識面においては、よく似た傾向を持っていたが、Self-Efficacy、Self-Esteem の平均得点に関しては受講希望者で男女とも低く、必ずしも受講予定者と同じ特性の集団ではないように思われた。無作為抽出者中の受講を希望する者の割合は学年間で大きな差はなく、男で 20%前後、女で 30%前後であり、潜在的にはピアカウンセリングに対するニーズがあると予想され、高校生がピアカウンセリングにより参加しやすいような環境作りが重要であると考えられた。

平成15年度の研究では、性に関するピアカウンセリング受講前後で、男女とも人生計画の具体性の有無、避妊・性感染症に関する知識、避妊・性感染症に関する意識やコンドーム使用に関する自信についての問いなどで好ましい方向に変化しており、知識以外にも性や人生の自己決定能力に関連する要因にも短期的には好影響を及ぼしている可能性を示した。本研究は無作為割付し、対照群をおいた介入研究ではないので、評価としては完全とはいえないが、今回の調査項目が短期間には大きく変化しにくい項目であることを考えると、その変化に関しては一定の評価が可能であると考える。ただし、今回の研究結果は限られた集団での検討であり、まだ、一般化できる段階ではない。他府県の集団など特性の異なる集団における研究などでさらに検討を行う必要がある。

性に関するピアカウンセリング受講者のうち受講してよかったと 80-90%が回答しており、受講者の満足度は非常に高く、また、60-80%が友達へも勧めると回答しており、一定の波及効果も期待できる。

性に関するピアカウンセリング実施上の今後の検討課題としては、将来、ピアカウンセリングの活動をしてみたいと思う者の割合が 40%-60%程度おり、これらの人材を支援し、活用できるシステムをいかに構築するかという点、また、いつ頃受講したいかの問いに男女とも中学 1-3年生が 60%以上、高校1年生を含めると80%以上を占め、実施時期はいつごろがよいのかという点などがあげられる

5．ピアカウンセリングの国際的動向に関する研究班

平成１４年度は、国際的なピアカウンセリング指導者養成およびピアカウンセラー養成マニュアルやテキストに関する、情報検索調査を実施した。２０の国際期間・専門機関から役３０種の文献・資料を入手した。

平成１５年度はその中からピカウンセラー・ピアエデケーターの養成カリキュラムと養成者養成の国際的動向が明確となっているものに焦点を当て、ＩＰＰＦとＷＨＯから出されているもの二冊を重点翻訳した。この内容は分担研究報告書で紹介した。その後、本研究分班のピアカウンセラーおよびピアカウンセラー養成者養成のカリキュラム案と照合し、国際的見地からカリキュラムの整合性・妥当性を研究動議し、わが国におけるピアカウンセリング・ピアエデケーションの効果的普及を図るための方向性を確認した。

Ｄ．結論

１．今回作成したピアカウンセラー養成およびピアカウンセラー養成者（指導者）カリキュラムは、受講生の評価を適時受けながら作成したので、ニーズに即した実践への応用が可能な目標と内容として結実した。マニュアルは、カリキュラムを展開するのを手助けする意味を含めて作成したが、多くの地域で実施していただくことによってさらに内容や方法の多様性は広がることが期待できる。

２．ピアカウンセラー養成カリキュラムにはベーシック養成のみならず、その後の実践活動を経験しながら避けて通れないパワーレスなどの対応に、ピアカウンセラーへのフォローアップセミナーの必要性がわかった。その一連の追跡結果から、最終的なピアカウンセラー養成カリキュラムをその目的・時間数・教授方法などフィックスした。その養成カリキュラムと連動しながら、モデル研究「セミナーを実施し、ピアカウンセラー養成者（指導者）の養成カリキュラムをフィックスした。養成者（指導者）セミナーにも、ベーシック・フォロアップの両方が必須であることが分かった。

また、感性豊かに仲間たちに寄り添い、自己決定を支える能力あるピカウンセラーを養成するには、養成者自身が感性豊かに若者により添える資質が重要な鍵であることが分かったので、それを精査するための課題を研究精査した。従ってこの二つの養成カリキュラムおよび具体的な教授展開方法は連動することから、養

成マニュアルとして合冊することとした、

3．さらにこの養成カリキュラムおよび教授展開方法を今後普及・定着させるには、国際的な裏づけが必要であったので、国際動向研究の成果との照合を研究討議した。将来にわたって普及・定着を期待していくには、すでにさまざまな文化・生活習慣など多様化した条件をクリアしたものが実存しており、それと照合することが、わが国でも流行ではない底辺まで根付くものを構築できると考えられるからである。

4．ピアカウンセリングを受けたまたはピカウンセラーの保護者に対する質問紙調査
から、他領域を巻き込んで連携をとりながらピカウンセリングを立ち上げるための加速要因の一つに、ピアカウンセリングを肯定している参加者の保護者の協力も重要であることがわかった。また、参加高校での参加高校生の活用状況が図られていたことを踏まえて、県をキーステーションとする立ち上げマニュアルを作成した。そこには受講生の自分を大切にする自尊感情や自分に対する自信度、性知識や考え方および行動に変化の状況から、評価方法も立ち上げマニュアルに挿入することが必須であることがわかった。

他方、他領域とくに教育委員会等と連携が早急に取り合えない場合、保健行政内の他部門などと連携しながら立ち上げることも緊急課題解決には重要であることもわかった。

5．本研究最大の目的であったマニュアルの構成を以下のように2部構成とした。

<u>1部:ピアカウンセリング事業立ち上げマニュアル（以下の3内容含む）</u>

a.県を基盤とした立ち上げマニュアル
（ピカウンセリング・コーデネィターの機能・役割を含む）

b.ピアカウンセリングの有効性の評価マニュアル

c.各都道府県・市・大学・民間団体それぞれから立ち上げている事例集

<u>2部:ピアカウンセラー養成・ピアカウンセラー養成者（指導者）養成マニュアル</u>

a.ピアカウンセラー養成者(指導者)養成マニュアル.

b.ピアカウンセラー養成マニュアル

なお、マニュアルは予算執行・編成に役立つように、7月を目安に全国都道府県および政令市、看護系大学宛配布予定である。

6．今後の課題

マニュアル作成は今年度で終了するが残された課題として（1）マニュアルの都道府県への配布後の効果的普及、（2）ピアカウンセラー養成および養成者養成の水準を一定に保つための教材作成、（3）全国のピアカウンセラーや養成者のパワーレスの予防のための、仮称　ピアカウンセリング研究所および掲示板などで情報交換できるホームページの作成が関係者から希求されている。

最後に、本研究班で作成されたマニュアルにそったピアカウンセラー養成およびピアカウンセラー養成者（指導者）の養成を、教材の開発などにより一定水準の養成レベルを保ちながら円滑に広く普及させるためには、組織的に取り組む必要がある。そこで現在、養成や認定などに関わる組織団体として、仮称　ピアカウンセリング研究所の設立を検討中である。

F.健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

(1)渡辺純一、堀内成子、小陽美紀、竹内千恵子、片桐麻州美、高村寿子：ピアカウンセラー養成セミナー受講後フォローアップ評価,思春期学 VOL(22)1.167-174.2004.

2．学会発表

(1)渡辺純一、堀内成子、小陽美紀、江藤

宏美、竹内千恵子、片桐麻州美、高村寿子：ピアカウンセラー養成セミナー受講後フォローアップ評価，第5回日本ヒューマン・ケア心理学会発表論文集，51-52, 2003.

(3)・村寿子,前田ひとみ,橋本充代:A New Strategy of Youth-to-Youth Japan(1),第18回ヘルスプロモーション・健康教育世界会議、2004.4.メルボルン

(4)橋本充代,前田ひとみ,・村寿子: A New Strategy of Youth-to-Youth Education in Japan(2),—Practical Model in T Prefecture—,第18回ヘルスプロモーション健康教育世界会議,2004.4.メルボルン

5)篠澤倪子第7回高村寿子,矢板橋チヅ子:高校生のピアカウンセリングニーズと普及に関する課題. 第7回日本地域看護学会学術集会,2004.6(P34－1),発表予定

H．知的所有権の取得状況

現時点なし

(2)渡邉至,中村好一,篠澤倪子,・村寿子:栃木県下の高校生の性に関する特性とピアカウンセリングニーズについて. 第62回日本公衆衛生学会総会,2003.10.(日本公衛誌50(10):591,2003)

Education in